

宣統九年三月
英國之於中國，水雷艦炮逐艦，陽炎布都、

案

大臣

次官



軍務局長



陸軍大臣

副官



參事官

年 月 日起案

發付
三月廿日



1601

海軍大臣

向十回航中、先、略、中、守、佐、世、保、軍、港、之、事、了、
到、若、及、之、旨、可、然、口、執、妻、夫、事、を、以、以、

三十二年三月十五日

海軍大臣

侍従長

1602

供濟

宣統元年

相

造松課

軍事課

第一課長

第二課長

第三課長

經理局長

相

經理局長

少官儀

三月廿五日附詳在空陽左田飛為久陽炎田

航務務取扱に常下取に就た本月本日横須賀

航務務取扱に常下取に就た本月本日横須賀

航務務取扱に常下取に就た本月本日横須賀

西のてききりりりり

常服取扱取扱

海軍大臣

軍務局長

出東高宿所、神田西宮町老丁同格者古地田島新方、有也

海軍

供覽



軍務局長



造船課長

軍事課長



エリクソン

漕茅四四号

豫定航路ニ付漕届

本艇本月十六日本邦ヲ向ケグリニハイセ出帆左記ノ各港
ヲ經一月上旬佐世保港へ到着ノ豫定ニ有之矣此段及
漕届矣也

明治三十三年十月五日

水雷艇漕届委員長海軍少佐竹内次郎

軍務局長諸岡頼之殿

ポーツマス プリマス シブラルター マルタ

ポートセプト スモズ アデン ロロンボ

シンガポール サイゴン ホンコン アモイ

佐世保 神戸 横須賀

軍造第一三三七號

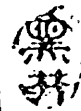
海軍

11

主事



栗井



十月六日

發付日

年月日起案

大臣

次官



軍務局長



造船課長



案

英國中江一社に於て製造する水雷艇艇逐艇連ハ子

官房第四五二一號

一頁

一頁

1605

海軍

該工中月十六日解纜中邦へ回航途に就きり案
可然の報奏を由至に付し進名

三十二年十月十八日

海軍大臣

侍從長宛

供覽

<p>海軍</p> <p>造船課長</p> <p>機務課長</p> <p>兵器課長</p> <p>軍務局長</p>	<p>電報</p> <p>三年七月八日</p>	<p>軍務局長宛</p> <p>不承</p>	<p>連七月八日進水</p> <p>勝り</p>	<p>人事課長代</p>	<p>第一艦隊長</p> <p>第二艦隊長</p> <p>第三艦隊長</p> <p>經理局長</p>	<p>官外軍令係</p>
---	-------------------------	------------------------	--------------------------	--------------	--	--------------

1607

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS (Delivery form)

1608

Station <u>Nagasaki</u> Office No. <u>20</u>	Address <u>Inazuma</u>
Received <u>9/50</u> Date <u>8th July 99</u>	Tokio
Time	
By <u>Kawachi</u>	
Class <u>S</u> Original Office <u>London</u>	Remarks <u>via</u>
No. <u>3</u> Words <u>6</u>	<u>eastern</u>
Date <u>8th July 99</u> Time <u>7 p</u>	<u>Govt</u>
<u>送水滞+ク滞+4</u>	七月八日
<u>outrosi</u>	<u>連</u> <u>Terwinho rabavento</u>
	<u>Matunaga</u>

洪覽

IMPERIAL JAPANESE NAVY

軍務局長

造船課長



九月廿二日

水雷艇駆逐艇連公試運轉成績報告

水雷艇駆逐艇連公試運轉明後三十二年七月二十日丁武士河
マプリン附近於之施行候所結果良好ニシテ標柱間平均速度
三二・三節三時間繼續運轉平均速度三二・三六七節ヲ得タリ
依テ別紙運轉成績相添此段報告仕候中

造船監督官 山本 庸藏

和田垣保造

造船造兵監督長 松永 雄樹 殿

成慶泰 家園 心 抄

此等草書式

昭和三年八月廿七日

第九一號

水雷艇駆逐艇速公試運轉成績摘要

吃水

前 五呎〇吋
後 五呎六吋
平均 五呎三吋

排水量 三百十二噸半

標柱間

三時間

平均回轉數

三八九五

三九二〇八

平均速度

三一・八三

三一・三八七

供覽

確

軍令部長

[Handwritten signature]

次長

[Seal]

第一局

第二局

[Seal]

連公討運轉所其結果下
速力三一八三
三時間平均速力三一三八七

軍務局長

佛敷 邦永

軍務局長

機關課長

造船課

[Seal]

電報

二年七月廿日

海軍

1611

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

(copy form)

Station <u>Kaiyuan 47</u> Office No. <u>12162</u> Received Time <u>12/16/99</u> By <u>Kawaguchi</u>	Address <u>Inazuma</u> <u>Tokio</u>
Class <u>B</u> Original Office <u>London</u> No. <u>21</u> Words <u>11</u> Date <u>2 July 99</u> Time <u>6:15 PM</u>	Remarks <u>Government</u> <u>Via Eastern</u>
<p>Tenriho permito descortez 31183. resina ministra arejar 31387</p> <p>Matsumaga</p>	

1612

電報

海軍

電報

海軍

電報

三十三年七月二十日

(第...)

軍務局長

海軍

石永

津公試運轉滑其結果下ノ如レ

速力


三一一八乙

三時間平均速力三一三八七


軍令部長


海軍

軍務局長 

軍事課長 

兵器課長 

造船課長 


機關課長 


電報 三年八月廿八日
軍務局長 倫敦


連 田形重良長付内


八月二十八日領收シタリ

人事課長 

第一課長 

第二課長 

第三課長 

經理局長 



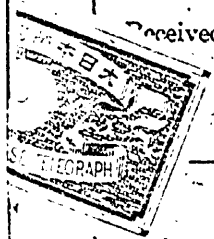


官房軍令部係

(山口印)

1614

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS. (Delivery Form)



Station Awicho Office No. 77
 Received 11:35 pm Date 30-8-99
Yama,

Address
Inazuma
Tokio.
Gummeikiokuchō.

Class 1 Original Office London po
 No. 14 Words 1
 Date 28-8-99 Time 4:10 pm

Remarks
Te

八月二十八日
Recherar burrasca
Takenouchi



1615

昭和二十一年八月三十日

海軍

電報



軍務局長

軍需部長

機關部長

若谷部長

電報部

造船部長

海軍

海軍

廿二年九月十七日午後三時十分グリニケ発

(連委員長)

内

九月十四日著九月十七日乘艦軍艦旗ヲ掲ノ

軍務局長

本部長



第一課長

第二課長

第三課長

第三部長



1616

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS

(Delivery form)

Station <u>Kaigan</u> Office No. <u>26</u>	Address
Received Time <u>11am</u> Date <u>18/9/99</u>	Remarks <u>Mazuma</u> <u>Tokio</u>
By _____	
Class <u>S</u> Original Office <u>Greenwich</u>	
No. <u>3</u> Words _____	
Date <u>17/9/99</u> Time <u>3.10</u> m	
<p>九月十四日 著 R 九月一日</p> <p>乗艦 軍艦旗 福</p> <p>napeiso escancas indecorado</p> <p>Takenouchi 善次郎</p>	

1617

Station <i>Koijima</i>	Office No. <i>45</i>	Address
Received Time <i>8:40 am</i>	Date <i>18/10/99</i>	
By	<i>[Signature]</i>	<i>Mosuma</i>
Class <i>2</i>	Original Office <i>Portsmouth</i>	Remarks <i>TK10</i>
No. <i>31</i>	Words <i>4</i>	
Date <i>14/10/99</i>	Time <i>2:10 pm</i>	
<i>Arrived Sagami</i>		
<i>連 朝一ツノ入 替</i>		
<i>三ツノ入 十一ツノ入</i>		

1618

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS (Delivery form)

Station	Yamaguchi	Office No.	28	Address	
Received Time	11 18	Date	12 29 1933		
By	Kawachi				Masuma Tokyo
Class	Special	Order No.	1111	Remarks	3
No.	22	Words	64		
Date	12 29	Time	6 40		

Leave for
Kobai
amama
向G
連
三十二年十二月二十九日

1619

軍務局長

造船課長

三月廿八日

機務課長

和

柄

本機極閉部ニ付臨時報告

本機極閉部損害ノ件ニ付本機率組海軍大臣極閉ニ若崎敬
雄ノ別紙ニ通報書差出ニ付此段報告ニ付也

明治三十二年二月三日 於在倫敦港

水雷機渡田航委員長海軍少佐竹内次郎

海軍大臣山本權兵衛殿

人事課

軍造第三四四號

海

軍

英國出航ヨリ、コロンボニ至ル間復水器水管漏洩ヨリ滞滯ニ及

ホレシ據言ノ件ニ付報告

本艇領収終真乘艇后、艇室角、添置機其他、許運転ヲ執行セシ

后、左舷送水機手働田、降湯槽内、復水器分ノ含有ニテ、リ認

ナルカ直ニ會社技手ニ通知シ、左舷復水器開放検査、処水管一本其

端開裂セリ、其見セリ、該管端内部ニ長カク約一吋半、小管挿入トシ、而

シテ損処ニ同部ナリシ以テ、其理由リ、詰リシ枝キハ、早ニ管端リ強固ナラシムル

ノ目的ヲ以テ、挿管トシテ、通過ナスト、各ヘリ、尔後同地ヲ出航シ、コレニテ、滯々地

中海、左舷送水機ニ無事ニ過キ、些テ故障、ハモテ、百見ヒトリシカ、ボルトセリ、ト旋

泊中、右舷復水器水管ニ腐蝕為リ、小孔ニ生シ、漏水ニモ、一本ヲ、奏見トシ、之

ヲ交換シタリ

海軍

十二月廿六日對西ヲ突シ紅海航行中廿七日より復水岩、水箱、塩味ヲ帶
 アリ突見セシ濃分ノ増加ハ次分ニ甚クテ翌日他ノ二罐ヲ使用セシモ
 三十日ニ至リ著ク濃厚トナリ澱水、卍溢甚ク加フニ天候不良、為ノ主成
 ノ由輕リ減シ廿三年一月一日僅ニ二三ノガリノ島南灣ニ停泊シモ風波為
 ノ故燈消火ス一能ハ越テ一月三日ヤリ島ニ至リ復水岩検査ニ
 管端開裂トシモノ二本ハ孔ヲ生ゼシモノ二本ヲ發見シテ之ヲ交換シ二罐、
 水ヲ入シ控、終テ一月六日亞丁ニ至リ水工師筒ヲ借り束リ各ニ十封度
 ノ下カヲ加シニ左右復水岩各二本宛開裂及有腐蝕、兆候アリ見出シテ
 之ヲ交換シ其地控鑿ノ不良ナルモノ數個ヲ交換セリ流路ハ各罐共湯垢
 ノ存在頗ル甚シカシモ内部油ノ使用セハルヲ以テ油脂ノ存在ニ疑ハズ固
 形質耐着物モ管端ヨリ見ユ一盤キヲ以テ掃除尖ヲ用テテ各水管内
 部ヲ掃除シタル儀ヲ洗滌シテ而シテ水管内面ノ亞麻酸屋ハ精リ剥落
 ノ兆アリ是ニ鑑板内面ヨリ少許腐蝕ノ兆候アリテア、ロ、ロ式収縮ハ管内面

西航發金をり理由トシテ西航板野ノ必要ナリト断言セシ爲其ノ裝
 置ヲ勿論無キヨリ只掃除シテ蒸浦水ヲ滿シ一月十五日諸般ノ備
 ツ終ラテ即反悔ノ極所ヲ始ナリ而シテ廿七日午迄ヲ復水ニ塩味ヲ
 有シ始シ十日ニ至リテ著ク其度ヲ増加シタルガ非蒸化器直ニ倒レ復
 水器ノ復水ノ最モ塩分多キヲ以テ之ヲ復水ニ投棄シ蒸化器ヲ絶ニ使
 用シテ補給ノ道ヲ換フコトノ艱難絶ニ二十夜ニ達シ鍋水ノ所溢シテ埃
 積侵入シ爲メ而船高ノ気筒吸殻桿衛帶ヲ換シテ蒸化ノ損失ヲ
 来シ列爲神統ノ水不足シ先々ニ以テ已ツ得不再々船ノ復水オモ係
 用セシカハ時ノ埃ノ所ヲ肥塩方ヲ行ヒシモ物々ニ二十日ニ至リテ鍋水濃
 分一個ニ分ニ達セリ此際前部炭庫及上甲板汽箱前子ヲ石炭モ
 亦尽カスルヲ以テ直ニ後路ノ使用ヲ埃ノタニ其ノ儘分ハ非常ニ迅速ナシ
 増加シナシ二十一日午迄至リテ芳三子ノ鹽水管端ニ漏洩ノ兆ヲ呈セシ使
 用上義丈ノ無キヲ以テ單ニ埃ノ所ノ板行ヲ終ラシ廿三日朝至リ俄然

毎
 履

漏水ヲ増し且ツ四号管ノ水管ヨリノ屈曲ヲ発見セシカハ直ニ前管ニ行ク所
 ハ自他所ナリ為ニテ此ノ所ニ在リテ管ノ屈曲ヲ直ニ檢査セシニ管ノ管端漏水ニ
 シホト投縮シテ詰合却テ待テ直ニ檢査セシニ管ノ管端漏水ニ
 マノ敷本ナリシカ他一本應張ヨリ一尺厚ク外ニホ孔アリ共ニ発見トシテ
 麥ノ眼直ニ急修理ヲ加シ用ニ表丈ニテキニ直ラシメテ四号管ノ水
 ノ屈曲ニ至リテ其敷本ナリマテ到極迄急修理ノ見込ナキコトナリ
 詰リ用セラズ敷本ナリ決セリ今時復水器ヲ換査セシカ右管ニ異状ナリ
 左管ニ流テホ孔ヲ有スルモノ二本ヲ発見セリ
 以上ノ経路ニ由リハ管端開裂スルモノ地質不良ニ屬シホ孔ヲ生スルハ
 流電作用ニ基キル如クトモ原因如何トモ要知極ク懸念スル所地盤ナリ
 此ヲ得ズ此所敷本ヲ経路セシトスル所敷本中ニ生スル腐蝕ニ至ラハ水ノ
 腐蝕ニ其効ナキコトナリコトホト流テハ水ノ腐蝕ヲ執行セバ
 印度洋板中ヲ滲漏ノ為メ吸器ノ器衛帶ニ生スル不慮トナリテ漏洩甚

この殊に高ノ原ノ嶺ノ以テ鑿鑿及至ノ是ノ頃トモ其ノ傷損アリテ
右等ノ修理調整ノ為メ当港碇泊中早朝ヨリ午七時ニ於テ同部
共負リ使用セシメ尚ホ十日ヨリ費トシタリ

右等ノ修理調整ノ為メ前陣ノ如クナリシモ内部ニ何レモ多少ノ傷損ノ存在アリ
リ認ムルコト

右報告也

明治三十二年一月二日水雷艇連回航委員海軍大校士岩崎 敬 編

水雷艇連航長海軍少将竹内次郎殿

海軍

1627
1628



IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS. (Delivery Form)

Station Yokohama Office No. 32

Received Time 11:15 pm Date 16-2-1890

By W. J. Carter

Address Yokohama

Tokio

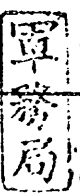
(Handwritten note in parentheses)

Remarks

Class Original Office Yokohama

No. 245 Words 18

Date Feb 16 1890 Time 11:15 pm



Caroleuses

apari

vide gnetas

metastem

chlede

consto concio?

occumo

deimand

anaphhe

mexicid

katia

rom heimete

ga kinnis

caro

dagaram

Handwritten Japanese notes on the left side of the form, including characters like 船, 所, 見, 精, 中, 明, 日, 等, 起, 修, 理, 報, 告, 共, 告.

耶 限 社
申 遺 及 報
ヨ ー ー 三

1627
1628

IMPERIAL GOVERNMENT TELEGRAPHS. (Delivery Form)

Station: Yokohama Office No. 32

Received Time: 11:15 PM Date: 11-21-1892

By: W. H. P. ...

Address: Manhattan

Takies

...

Class: ✓ Original Office: ...

No. 245 Words: 18

Date: 11-21-1892 Time: ...

Remarks

✓ E

Conditiones appari *conditio concis?*
occurre *dem and* *amaphie*
maximal *katka* *rem* *plimeter*
per finis *Carro* *day ar ame*

船所ニシテ見積中明日事修理工字又先
船所ニシテ見積中明日事修理工字又先
船所ニシテ見積中明日事修理工字又先

耶 限 有 限 公 司
申 込 及 遺 留

11-21-1892

citax
oncio?
me...
me...
報共ス

耶社制衣水雷艇駆逐艇(雷電)
 二限り田航申本艇令様復水
 際果し故障ヲ生ズ其原因ノ調
 査及び其状況ヲ製造者ニ
 申遣ハシ今後製造ノモノウ
 通當ニ改良セシムルノ必要ナ
 アリト認ム
 榊久徳

1629

報

供覽

新

軍務局長



造船課長



機關課長

ニリマ又

1630

重

復水器管漏減ノ事ニ付報告

本艇復水器管漏減ノ事ニ付屬ニ第廿四号ヲ以テ古倫母
 破泊中及報告ヲ通 航海毎ニ該管ノ漏減ヲ生シ為シ
 罐水塩分ヲ含ミ該罐并ニ機関部ニ損害ヲ与スルコトアリ 投錨後
 直ニ修理ノ必要ヲ生シ漸次破泊日數ヲ重シク止クヲ得カル
 次第ニ至リテ過日古倫母ニ於テ修理結了後去ル七日午
 辰ニ時辰破全運力ヲ海軍ヲ以テ航行スルニ十日午前九時半
 又ニ右艇復水器ニ漏減ヲ生シスルコトヨリ 田中ヲ減シ翌十日
 午後十一時半ノ右ウツイロ「カバン」灣ニ投錨翌日復水器ヲ
 検査セシム一幸！ 如何ノ原因能ハシメ見レタルヲ以テ之ヲ取
 換ヘ十三日午前躍水ヲ換ヘ午後三時当地ニ向テ本艇主外

軍造第三八七號

第

頁

又

以テ右備母
 ヲシ生シ為ソシ
 ヲリ投錨在
 止カラ得サル
 去ル七月年
 午前九時半
 減ニ初五十日
 濕水岩石ヲ
 ラ以テ之ヲ取
 四ヶ所搬去ル

1630

本報告並ニ他ノ耶社製駆逐艇ノ
 状況、鑑ミル中ハ、今後製造ノ場
 合ハ復水 Pipe 等、他ノ復水ナル製造
 者ヲ購入セシムル様耶社ニ申入
 レ、事必要ナル可トモ思考ス又既
 製ノ耶社製駆逐艇復水 Pipe ハ本
 邦ニ於テ十分ノ試験、上急皆取捨
 ラレコトヲ希シス

採買ノ様

1631

洋：一時洋ヲ經過シ度：右舷：漏洩ヲ始メタル午後七時
 フララズゴラシヤ：假泊新管取付ノ翌夜十一時迄當地
 向テ航行昨十日午前十一時洋典聖當港：到着仕マシキ
 ニテ紅海航行以東當地：到ル南海：設管漏洩ニ付非常
 ノ困難ヲ感シ殊ニ印度洋：通過ノ際「フアテン」山々森水三
 層夜ニテ漏洩ヲ生シキトシ今般路ノ洋ニ至ラスノ為メ：遅カ
 シ減マシカスル機械部ノ損害ヲ減スル得ルトモ右出度ノ
 貴類多量ニ要シ到着コロンボ：到着シ難ク：ヨリ回航ハ
 莫ク経海運カラ継続シカラスノ：層夜目ニ至リ三層層岸
 漏洩ヲ生シタル由ヒ一号ニ号罐ヲ使用シ漸ク右層夜ニ
 到シテ右層母ニ到着シ右修理ノ為メ：假泊ニ多日数ヲ要シタ
 右様：決メテ向後他ノ決断：損害ヲ及ボシ使用シ能ハカルノ
 場トモシトモ保シ難ク危険：次方ニ至ル當：地送郵所ニ於テ

別紙ノ方法ヲ以テ試験施行ノ旨決定ニ基別紙岩崎大板関
上報告層ヲ添へて報告多也

明治三十三年二月十七日

於新賀波

小雷殿 逕 田 瓶 委員 長 海軍少佐 竹内次郎

軍務局長 諸岡頼之殿

海軍

復水器各水管及茅三号汽罐水丁試験執行ノ義ニ付報告

茅一 英國龍動西印度船渠内繋留中丸艇復水器水管ニ端割裂

セシモノ一本

茅二 和トヒトトニ於テ右艇復水器水管腐蝕漏洩ヲ起スル一本

茅三 紅海航行中漏洩ヲ認ツバリト島ニ碇泊右艇見セシ丸艇復水器

於テ管端開裂至シモノニ本有蝕小孔ヲ生シモノニ本

茅四 亞丁碇泊中水丁試験ヲ行ナシ右各二本宛交換

茅五 印度洋航海中漏洩ヲ始メ古備母ニ於テ板査交換シモノ丸艇各永

ヲ二本

茅六 ベンガシ洋航海中右艇復水器内漏洩ヲ始メフオロキニ於テ一本交

換

母

臣

第七、アウロウ山出艇后再右舷岩に漏水ヲ発見シテランゲッティ、及び泊テテ交換

セシモノ一本

以上教田或は管端開裂等あり或は腐蝕あり来りしと共ニ其レテ汽箱ニ損害ヲ與ヘシモノ
ニシテ其原因地質ノ不良ト流電作用ト外ナリルモノト認ム而ルニ此後今后ノ航
海ヲ継続スルノ甚クハ危険ノ慮ハシテ此際陸上完全ニ工場ニテ利用シ之ニ
命シテ兩舷傷水各五尺ニ封及、水ノ加テ試験し取付の更ニ三十封及
ノ水ノ施行レテ完全ニ状態ニ復セト欲シカ記ノ見録書ヲ出レリ之ヲ
実行スルニ決セリ且ツ前回報告呈出后即チ古倫母出艇ノ前日更ニ三号鐘水
管ノ漏洩スル一本ヲ発見セリ因テ前回同様兩端ニ鉄釘ヲ挿入セリ然レニ此後
高ノ力ニ使用スルノ不安心ニシテ左會社ニ百五十封及ノ水ノ試験ヲ執
行ヒテトス蓋シ本艇水ノ唧筒ノ備付ナキヲ以テ汽箱ノ水ノ合セテ會社ニ命
シテトス

右報告也

見積書譯文

一、水管掃除ノ上之リ一層封蓋ノ水工用ニテ試験シ終リ之ヲ取り去リテ後三十

分度ヲ用ニテ水工試験シ行ラシム但し必要ナル木綿衛生帶類ハ會社ヨリ供

給スルニ水工推鏝等ニ要スル工價更ニ相違ノ代價ヲ請ホス

一、見積ニ百五十封蓋ノ水工試験シ執行スル

一、事業ノ昼夜兼行シテ約二周日ヲ要ス

以上ノ事業ニ對シ會社約八百九十五弗ノリ要ス

西曆一千九百零二年二月十六日 カナリアカーン、スワン

カレロシ、バリー、船渠會社副支那人

明治三十三年二月十七日 水雷艇通回艇委員通軍大校園士岩崎 敬雄

水雷艇通回艇委員長梅澤少佐 竹内次郎 殿

証

証

